

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670100627
法人名	社会福祉法人 敬寿会
事業所名	認知症高齢者グループホーム敬寿園
訪問調査日	平成 19 年 8 月 2 日・ 3 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	670100627		
法人名	社会福祉法人 敬寿会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム敬寿園		
所在地 (電話番号)	山形県山形市大字妙見寺500-1 (電 話) 023-634-2020		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年8月2日・3日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 11 年 7 月 1 日			
ユニット数	4 ユニット	利用定員数計	36	人
職員数	28 人	常勤	28 人, 非常勤	0 人, 常勤換算 24.6 人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独	新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート造陸屋根	
	2階建 ・ 3階建	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,000円		その他の経費(月額)	13,000円	
敷金	有(円)		○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円	
	夕食	300円	おやつ	100円	
	または1日当たり円				

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数		36 名	男性	4 名	女性	32 名
要介護1		18	名	要介護2	6	名
要介護3		7	名	要介護4	4	名
要介護5		1	名	要支援2		名
年齢	平均	84 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	篠田総合病院 ・ 市立病院済生館
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの立地している環境の面から地域住民との交流がやや難しい点もありますが、それをカバーするために「地域の一員としてどうすれば地域交流できるのか」を前向きに考え、商店での買い物や地域行事への参加を通して、できるだけ戸外へ出かける場を積極的に作り出すようにしています。「ゆっくり、楽しく、一緒に」という雰囲気大切に、利用者の自主性を尊重し一人ひとりの自立を支援していくケアが行われていること、また、利用者と職員が共に支えあい、まるで一つの家族のように仲良く、楽しく、安心して暮らしていることが、利用者の豊かな表情からもわかるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価に職員全員で取り組んでおり、支援の振り返りや反省ができ、日ごろの利用者支援につなげている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議の構成メンバーが集まるのが難しい状況にあり、会議の間隔も5～6ヶ月程度空いてしまっているため、参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割等を十分に理解し、積極的に参加してもらえよう働きかけを継続しながら、定期的に開催してサービスの向上に活かしていくことが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時、家族と話しをすることで意見をもらったり、会話の中から意識して意見を引き出せるように心がけている。家族から通院の対応をお願いしたいとの話があり、職員間で話し合い対応した例もある。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホーム自体を家庭の延長と考え、買い物に出かけたり、地域の行事やお祭りに参加、またはホームの行事に地域の方々を招くことで交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認、理解し、全員で理念を作り、立地条件をカバーするために地域との交流を念頭においている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員全員の話し合いで作りに上げることにより共有のものとし、実践に近づけている。また、月1回のミーティングには職員間で理念に触れる機会を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム自体を家庭の延長と考え、買い物に出かけたり、地域の行事やお祭りに参加、またはホームの行事に地域の方々を招くことで交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員で取り組んでおり、支援の振り返りや反省ができ、日ごろの利用者支援につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成メンバーが集まるのが難しい状況にあり、会議の間隔も5～6ヶ月程度空いてしまっている。	○	参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割等を十分に理解し、積極的に参加してもらえるよう働きかけを継続しながら、定期的に開催してサービスの向上に活かしていくことが期待される。

山形県 認知症高齢者グループホーム敬寿園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は今のところ行われておらず、市町村とともにサービスの質の向上に取り組む場面がない。	○	連携の必要性・場面・内容・範囲等について、市担当者や運営推進会議の参加者と一緒に検討してみること、また、市町村との連携事例の情報収集に取り組んでみることも期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶり、健康状態、職員の異動、金銭収支については、個々に合わせて定期的に報告されており、家族等の希望に沿う報告の形も取り入れている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族と話しをすることで意見をもらったり、会話の中から意識して意見を引き出せるように心がけている。家族から通院の対応をお願いしたいとの話があり、職員間で話し合い対応した例もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配置異動は、日ごろからユニット間の交流をすることで職員の顔を覚えてもらい、馴染みの関係を築いている。退職者に関しては、新採とダブルで配置し、引継ぎの時間を作ることで利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム独自の計画書はないが、大まかな目安を立て、全職員が1年に1回研修に参加できるように配慮している。参加者はレポートの提出を経て、職員に発表することで共有のものとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内外の交換研修や勉強会に参加することで、ホームでの悩みや相談、ケアの内容の提案を受けながら研修の内容をサービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム生活の中で食事の支度を共にに行い、味加減を見てもらったり、梅干や干し柿作りを教えてもらうことをしている。時には、戦争の話に耳を傾け共感したり、お互いに学んだり、支えあう関係の場面作りに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で、利用者一人ひとりの様子や言動に気を配り、配慮しながら意向、希望の把握に努めている。以前住んでいた近所の人とお茶飲みがしたいとの希望があり、家族の協力の下、希望を叶えた例もある。困難な利用者に関しては、表情の変化を見逃さないようにしている。		
えている					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、職員全員で話し合いをして作り上げており、ケアに反映した計画書になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにミーティングで計画の見直しを職員全員で行い、再度家族や本人に希望を聞きながら、状態に合った介護計画を作成している。		

山形県 認知症高齢者グループホーム敬寿園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者全員がホームのかかりつけ医に変更するのでは なく、利用前からのかかりつけ医にも通院できるようにし ている。かかりつけ医とは適切な医療が受けられる体制 ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	利用時に医療連携体制があることを伝え、指針を説明 している。また、かかりつけ医と連携し、利用者のケアを 職員間で話し合いながら、全員で方針を共有してい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	電話や面会時は、必要以上に職員がその場に入らな いようにしている。トイレや入浴誘導には気分を損ねな いような声かけをしている。また、利用者の誇りやプライ バシーを損ねないような対応、言葉使いはどうしたらよ いか常に職員同士で話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方、やりたいことは、利用者に聞きながら 決めている。起床時間や入浴、食事についても一人ひ とりのペースを大切にして支援している。		

山形県 認知症高齢者グループホーム敬寿園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の管理栄養士が立てているが、作る過程で利用者のアイディアを入れたりしながら食事を作っている。同じパン食でもパンの種類を多くして選択できるようになっている。1ヶ月に1回誕生会があり、外食をしたり選択メニューを取り入れたりして食事が楽しくなるような工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が自由にできることは、利用時に家族や利用者に説明している。家庭の延長であることを考え、夜間入浴を実施し安眠に繋げている。入浴拒否の利用者に対して、職員と一緒に入ることによって楽しく入浴できるようになった例もあった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度の手伝いや縫い物をしていただいたり、外では花植えをしてもらったりしている。また、買い物やドライブに出かけることで気晴らしに繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出かけることを心がけ、買い物や通院の帰りにドライブをしている。また、心身の状態や介護度に合わせ、行事参加や日光浴などの支援もなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、職員の目配り・気配りによって利用者の行動の変化に気づき、鍵をかけない支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中を中心に避難訓練を行っている。今後、地区の消防団の協力の下、訓練を行う予定である。		

山形県 認知症高齢者グループホーム敬寿園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態を見ながら、水分量や食事量を記録に残している。利用者の健康状態を見たり、食事量を把握することで、医師との連携に役立っていることもある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々に季節の花々が飾られており、共用空間は広く明るく、利用者が会話できるようにソファの配置が考えられている。また、天窓から入る日差しが直接当たらないように布で覆う工夫がされており、居心地よく過ごせるようになっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者一人ひとりの思いで家具の配置がなされており、家庭で使用していたタンスや仏壇が持ち込まれ、居心地の良い居室になっている。		